

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300109		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	グループホーム ひなたの家		
所在地	横手市増田町吉野字梨木塚95-2		
自己評価作成日	令和5年8月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなたの家の理念「自由で穏やかな暮らし」「笑顔あふれるその人らしい暮らし」「人と人とのつながりを絶やさない暮らし」に基づいた介護の実践に努めている。
ご本人の意向に沿って、できることできそうなことを一緒にしながら、できる力を引き出しつつそれを生活に活かせるように支援している。
職員は入居者様一人一人の性格や気分を十分に把握し、言葉遣いや態度に注意し、親しみを持ちながら丁寧な対応に努めている。また、虐待の前段階の「不適切ケア」の防止のためチェック表を活用し毎月振り返りを行い、自身の介護について点検を行いながら、入居者様に安心して居心地よく過ごしていただけるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年10月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である自由とは何か、穏やかなとはどういうことなのかと職員全員で深く掘り下げ、ケアの実践にどう結びつけていくのか具体的に話し合い、選択肢を提示し自己決定できる支援につなげている。コロナ禍が続き入居者の活動が制限される中、様々なイベントを企画しホーム内で楽しく過ごせる環境作りにも力を入れていた。入居者へ年1回意向調査を実施し、その人らしい暮らしの実現に向け、思いに寄り添い願いを叶えようと実践している。身体拘束廃止には特に力を入れて職員教育を行っている。不適切ケアが虐待につながる可能性があると捉え、不適切ケア自己チェック表を用い毎月振り返りを実施している。出された内容について管理者が評価をし、改善すべき項目を個別面談で確認している。また、1ユニットで職員数が少ない中でも職員が交替で毎月勉強会を担当している。勤続年数が短い職員で6年と離職率の低いことが、ケアに関する意識の高さとチームワークがよいことを証明している。自立支援に積極的に取り組み質の高い介護を実現しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の場で確認し合い、実際のケアに照らし合わせ、業務に反映できるように努めている。また、職員の目につく場所に張り紙で貼り、理念の共有に努めている。	理念の「自由で穏やか」とはということなのか、具体的に考えてみようかと検討している。生活のすべてを自由には出来ないがここで出来る自由を最大限に叶えるにはどうしたらいいかと理念を掘り下げて具体的なケアに結びつけるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、人とかかわる活動は自粛しているが、なじみの場所等に関われるよう支援している。	コロナ感染防止対策で外部の方々との交流は控えていたが、かまくらやあやめ祭り、犬っこ祭り等なじみの場所へ外出支援を行っていた。入居者から喜びの声と笑顔があったとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報誌を4ヶ月に一度発行、地域や関係各所に配布し、認知症に関する知識やひなたの家の生活や取り組みを紹介する等認知症への理解が深まるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催していたが、コロナ禍により、現在は開催予定の月ごとにご家族や関係者に文書を送付し、活動の状況について報告している。	入居者、家族、増田町地域局職員、民生委員等で構成している。入居者の状態変化や外出支援、勉強会、感染対策の内容等幅広く活動内容が会議資料に事細かに記載されている。現在は会議開催せず資料配布だが、11月から開催予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加する横手市職員に組み等について詳細に報告していた。また、地域包括支援センターからは介護相談員の訪問があり、入居者様や職員との会話を通し日常の様子を伝えていた。現在はコロナ禍のため自粛している。	増田町地域局の職員に運営推進会議の資料を配布している。地域包括支援センターの介護相談員が毎月訪問し、入居者の話し相手や相談にのってくれたり等していたが、感染予防で控えている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止及び高齢者虐待防止マニュアルを作成している。身体拘束廃止についての内部研修を年二回、虐待防止については年一回実施し、理解を深めている。玄関の施錠については、一般家庭と同じようにしており、身体拘束はこれまで行ってない。「不適切ケアチェック表」により、毎月一回全員が自己評価を行い、虐待の前段階の不適切ケアを行わないよう努めている。	虐待の芽と言われる不適切なケアを防止することを特に強化し取り組んでいる。毎月の不適切ケア自己チェック表は40項目にもおよび、職員ひとり一人が〇×でケアを振り返っている。個別面談時に管理者が項目について指導教育を実施している。具体的な行動方針や月の目標を掲げ、職員の意識づけをし、徹底理解を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する知識を学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が実施し、理解・納得が得られるように分かりやすく丁寧な説明に努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族には、ケアプラン更新の際や電話、ご面会の際にご意見、ご要望を確認している。いただいたご要望は、運営やケアに活かすよう努めている。	健康状態や日常生活の様子、行事予定等担当者が毎月入居者ごとに家族へ近況報告している。コロナ感染対策で面会できずにいた家族の心情を考え、30枚を超える写真を送付していた。一方的にお願いすることがないよう意見を聞き、よりよい関係づくりに努めている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月一回、ひなたの家会議を開催し、意見や提案を述べる機会を設け、反映する機会を作っている。	管理者は普段からコミュニケーションを図るように心がけ、職員からは要望をよく聴いてくれていると伺った。勤務要望のルールはあるが、家庭の事情を考慮し叶えている。トイレの電気をつけない入居者のためセンサーライトを設置したのは職員からの提案だった。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市グループホーム情報交換会のネットワークがあり研修等に参加していたが、現在はコロナ禍のため開催されず、参加できていない。開催されれば参加する予定。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階では、安心して生活できるよう話しやすい雰囲気作りに努め、本人の要望等をうかがう機会を作っている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からは十分にお話をうかがい、安心して利用していただけるよう良好な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること・わかることを見極め、自身でそれが行えるようにサポートし、お礼やねぎらいの言葉を伝え、有用感や自尊心が高まるように配慮している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には本人の心情を考慮し、本人と電話で話す対応の協力をしていただいている。 行事へも参加していただいていたが、現在はコロナ禍のため中止している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	現在は、コロナ禍により外出は自粛しているが、会いたい人、行きたい場所などの情報収集に努めている。手紙でのやり取りや、ご家族手紙を書いていただく等関係性の継続に努めている。	前回課題の案内板等の設置については錆びていた案内板の色を塗り直し改善していた。車イスを使用している入所者に職員が付き添い、能の謡教室に通っていた事例があった。入居者の有する能力に合わせ手紙を書いてもらったり、代筆したりと継続的な交流が出来るよう支援している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し、状況に応じて席替えを行い、過ごしやすい環境作りに努めている。 難聴の方へは、お互いの会話が理解しやすいように仲介している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が実施し、サービスの利用が終了してもいつでも相談が可能であることをご家族に伝えている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を伺い、ケアプランに反映させている。意向調査を行い、要望・意向をうかがう機会を設けている。返答が困難な方の場合、日常の様子から推測している。出された希望、意向については、それに沿った対応が行えるよう検討している。	娘さんに会いたいかと質問すると「別に」と返答した入居者だったが、実際に会うとニコニコと笑顔で嬉しそうにしており、その後気持ちが上向きになったとのこと。言葉として表出できない内に秘めた思いを汲み取り実践につなげていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等をうかがい、カルテにファイルし情報を共有している。「発症シート」や日常生活の会話の中から情報の把握、共有に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望をうかがい、カンファレンスに参加できない職員からも意見やアイデアを募り、それをもとにカンファレンスを行い、一人一人に合った介護計画を作成している。	介護計画書を作成する一連の流れが一覧表となっていた。明確な意向を聞き出せない場合は日々の様子から好きそうなことを提案している。全職員からの意見をもとに入居者別の着眼点を提示し、カンファレンスで話し合っている。入居者主体の生活を反映した介護計画書を作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をカルテ、連絡ノートに記載し、情報の共有を行うとともに介護計画の見直しに活用している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ敷地内にある事業所との合同行事の開催や近隣のボランティア団体の慰問等交流が図れるようにしていたが、現在はコロナ禍のため自粛している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や薬局が可能な限り継続できるように支援している。かかりつけ医や薬局と良好な関係が築けるよう配慮し、連携が図れるように努めている。	今までのかかりつけ医へ職員が受診介助している。受診内容は家族へ電話やお便りで報告し、処方薬変更時は連絡ノートを活用し職員間で共有している。薬局は処方薬を配達してくれている。歯科衛生士が毎月訪問し、口腔内の衛生管理をし、歯科医往診の要請や助言をしており医療との連携が密である。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、週1回の訪問時だけでなく、相談したり、緊急時にも指示を仰げる体制が整っている。訪問看護のアドバイスからかかりつけ医へ相談したり、受診につなげる等連携をとっている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には早期に情報提供を行っている。また、定期的に面会にうかがい、病院関係者からの情報を収集し、退院後の生活に生かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ひなたの家では、看取りを行わない方針を入居時に伝え、その中でできる範囲、条件について十分に説明を行い、理解を得ている。	入居時に看取りを行わない方針であることを家族に伝え、理解していただいている。状態に応じて医師から終末期の意向を確認するよう要請があり、家族と話し合っている。週1回の訪問看護も状態悪化時は医療保険に切り替え、頻回に訪問してもらう体制が整っている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、施設内研修を実施、急変や事故発生時の対応に備えるよう努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに基づき、施設内研修を実施し理解を深めている。また、年二回の日中及び夜間想定消防避難訓練を実施している。	前回課題の発電機の操作方法の周知は、操作手順を番号にする等分かりやすくしていた。また避難場所の夜間照明の必要性については法人本部に報告し、センサーライトを検討中とのこと。消防訓練の他、法人事業所と合同で消火訓練を実施している。食料や雨具、防水シート等備蓄している。BCPの策定は法人本部で作成中である。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルに基づき、施設内研修を実施し理解を深めている。また、「ひなたの家クレド」「不適切ケアを行わない具体的方針」に基づいた介護を心掛け、「不適切ケア」及び「介護の基本の実行」について毎月チェックを行い、自身の対応の振り返りを行っている。	「ひなたの家のクレド」に基づいた基本姿勢や態度等を心がけ、ケアの実践に努めている。個人的なことは相談室か居室で話すように配慮している。訪問当日も居室見学時は入居者自身に許可をいただき、居室を案内してもらった。本人の気持ちを大切に、さりげないケアが実践されていた。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを職員が把握し、髪型や服装がその人らしくなるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の相談や食材の下ごしらえ、盛り付け等意向に沿い、できる力を活かしながら食事作りを一緒に行えるようにしている。	その日のメニューは入居者と相談しながら決めている。「洋食の日」「塩の日(筋子、たらこ)」「鍋パーティ」等いつもと違う雰囲気作りをし、食事を楽しめる演出をしている。訪問当日はジャガイモの皮むきを手伝う入居者がいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記録し確認、把握している。水分を取りたがらない方には工夫を行い、代替えのゼリーを提供する等不足ないように支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一回、歯科衛生士による口腔内及び義歯の状態について確認を行っていただいている。その結果をもとに一人一人に合った口腔ケアについての指導を受け、日々の口腔ケアに活かし、口腔内の健康に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通して一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けのタイミングや方法を探り、できるだけ失敗のないように支援している。	自尊心から排泄の確認が困難な方の支援も無理強いせず、排泄チェック表をもとに排泄の失敗がないようその人に合わせた時間や対応で誘導介助している。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、飲食物、運動等、便秘予防に努めている他、医師への相談や連携に努めている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の健康状態や希望に沿って入浴をしていただいている。入浴を好まれない方へは声掛けや対応の工夫を行い、できるだけ入浴していただけるよう支援している。	入浴の準備に時間を要するため、3日に1回の入浴にしてほしいとの希望ある方には本人の意見を尊重している。午前に入浴したいという希望者もおり対応している。柚子をいただいた時には柚子風呂を楽しんだ。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに沿って適宜休息が取れるように支援している。また、快適に休むことが出来るよう居室内の温度湿度の確認を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書をファイルし、いつでも閲覧できるようにしている。薬について不明な点がある場合には、薬剤師へ相談し、その情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の情報や入居後の日々の生活の様子から、ご本人の好む活動の把握に努め、その活動を楽しんで行えるようサポートしながら気分転換を図っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出等について意向調査を行い、外出支援を行っていたが、現在はコロナ禍のため、自粛しており、ドライブや散歩にとどまっている。	花の苗を買いに行ったり、お花見ドライブやあやめ祭り、絵灯籠等様々な場所へ外出したりしている。家に行きたいという思いを汲み、出身地へ外出したが風景が変わっていたため本人はわからなかったが、突然の訪問にもお茶をいただきてきたことがあったとのこと。日常的な外出の他に、思いに沿った個別の外出支援を行っている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際にご自身で買い物ができるように支援していたが、現在はコロナ禍のためお金の使用機会がなくなっている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い気持ちよく過ごしていただけるように努めている。季節に応じた装飾や花を飾り、室内が明るくなるよう工夫している。	生け花をリビングや床の間にしつらえ、廊下には季節を感じることでできる装飾を施す等している。ゆったりとしたBGMで心身とも癒され、リラックスできるよう工夫されている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性や一人一人の心情に配慮した席に座っていただいている。廊下にはソファを設置し、自由に過ごせるように配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具、テレビ、DVDプレーヤー、冷蔵庫などの電化製品等を持ち込み、過ごしやすいように配慮している。また、本人の希望を伺いながら出窓の棚に写真、鉢植えの花等を飾り、居心地のよい環境作りを行っている。	テレビや冷蔵庫、家族の写真や信仰している宗教の物等を持ち込んだり、花が大好きな方は出窓に鉢植えを飾ったりしていた。一人ひとりの居室がなじみの物や好みに装飾され個性にあふれている。大谷翔平の大ファンだと飾ってあるポスターを入居者が紹介してくれた。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、全館バリアフリーで随所に手すりを設置しており、安全に移動できるようになっている。場所を示す張り紙をしたり、できるだけ職員の手を借りなくても行うよう必要な物品を本人が使いやすいようにあらかじめ準備するなどの工夫を行っている。		